

欠席委員（村山委員）意見要旨

＜① 危機に強い安全・安心な地域づくり＞

- 夏の暑熱など気候変動リスクを、方向性⑩だけでなく、方向性①にも盛り込んでほしい。市街地では建物（の空調）や自動車からの排熱が多く、緑も少ないため、熱中症のリスクが上がっている。
- 水害対策のうち、内水氾濫対策は、これまで貯水槽の設置などの土木的な対応をしてきたが、それでは不十分となる時代がくる。街で雨水をその場で土に浸透させたり、流出までの時間を稼いだりするようなグリーンインフラの導入が求められてくる。グリーンインフラによる緑の増加は暑熱対策等、他の効用もある。

＜⑧ スーパー・メガリージョンのセンターを担う大都市圏づくり＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により航空旅客は激減しているが、貨物は減っておらず、今後もむしろ増えていくことが想定される。そのため、空港の機能強化については、航空旅客だけでなく、航空貨物の観点や、セントレアから東海地方各地への物流の観点を入れるとよい。
- 愛知県の強みであるモビリティの先端性を重視していくと、自動運転などの道路交通に注目しがちであるが、福祉の観点からは、従来型の鉄道などの公共交通の維持は不可欠であるので盛り込んだ方がよい。

＜⑨ 選ばれる魅力的な地域づくり＞

- 過密な東京には行きたくないという人が、地元の大学への価値を見いだすことも増えるのではないかと。それを活かしていくため、愛知の大学の魅力をどんどん創っていく必要がある。東京のみならず世界の大学とも繋がって、愛知に住みながら国際的にレベルの高い教育を受けられることが必要である。
- 災害に対しきちんと対策がなされ、安全安心の面に対応できていることを発信していくことも、居住地として選ばれるために必要と思う。

＜進捗管理指標について＞

- 気候変動に関連した指標として、熱中症による死者数や救急搬送人数を追加してはどうか。
- 自動車、バス、鉄道、新しいモビリティなどの交通の分担がどのように変化していくかなど、移動に関する指標があると良い。
- 産業分類別の労働者数のバランスを指標としてはどうか。これから自動車産業の中身が変わっていくと思うが、うまく新しい業態に転換していくか、県として実態を追っていくのは大事だと思う。